

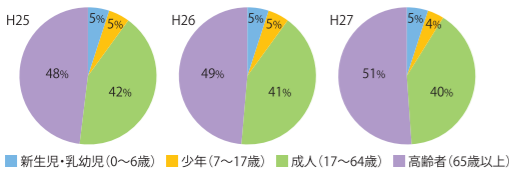


# 救急車の出動状況 (平成25~27年)

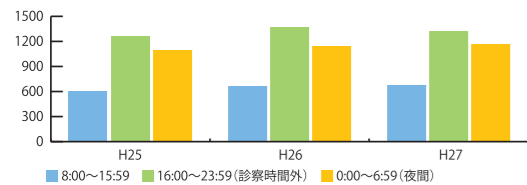
夜間救急の適正受診について考える

今回は名護市消防本部が扱っている救急車出動状況の報告を致します。

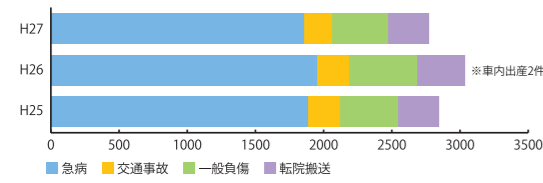
□年齢別救急車利用件数



□救急車出動時間帯



□事故種別出動件数



※名護市消防本部より救急車出動件数データ提供



夜間救急の適正利用を促す

2分30秒の動画です。

スマホ、携帯電話から

閲覧できますので「やんばるの医療を守ろう!!」是非ご覧ください。

動画サイト:<https://youtu.be/OouHRxUnTgU>



QRコードを  
読み込んで  
開くことも  
できます



# やんばる 地域医療だより

問い合わせ先：公益社団法人 北部地区医師会 沖縄県名護市宇茂佐の森5丁目2番地7 北部会館4階 TEL：0980-52-6733

「やんばる国立公園」に代表される自然があります。

定住に必要な衣食住の生活環境も整っています。

親しみを感じる人々がいます。

そんな沖縄の北部地域の医療に貢献してみませんか？



## 今、あなたの力が必要です！ 医療従事者募集!! 人材バンクスタート

北部地域では、産婦人科、救急医療等、慢性的な医療職の不足が続いており、北部出身の医師をはじめとする医療職者に、インターネット上で連絡先や勤務希望条件等をご登録いただき、北部地域にゆかり・関心のある医療職のネットワークを構築する目的でスタート致しました。

北部地域出身者だけに限らずこの地で一緒に北部の医療を支えたいとお考えの方にもぜひ、ご参加いただき、定期的に北部地域の情報発信(病院等の求人情報、医療に関するイベント、地域のイベント等)を行います。

登録をして北部地域からの情報を  
入手しませんか？

ホームページはこちらから

<http://yanbaru-iryuu-jinzai.com/>



登録は  
こちらから



# 医療の情報をラジオで配信

やんばるメディカルゆいま〜る

“みんなで考えよう北部医療”をテーマに医療とリスナーがつながる番組!医療との適切な付き合い方や、健康づくりにまつわる情報、#8000の利用方法、予防接種の開催情報など、女性ネットのメンバーやドクター・ナースをゲストに迎え、情報満載でお届けします。

【毎週水曜日】10:00~10:30  
FMやんばる **FM77.6MHz**

【毎週水曜日】12:00~放送(収録)  
ちゅらハートFMもとぶ **FM79.2MHz**



10月までのゲストとテーマは表の通りです。詳しい内容はFMやんばるのユーストリーム、やんばるメディカルゆいま〜るのフェイスブックをご覧ください。

ゲスト	FMやんばる パーソナリティ みやさん&ゲスト	テーマ
名護市消防本部	健康課:比嘉一星 儀部祥太 西村亜沙美 NPO法人HICO宮城	救命講習会のお知らせ AEDの使い方について
公益社団法人 北部地区医師会	法人事務局長 稲嶺盛嗣	医師会とはどのような団体?
公立大学法人 名桜大学	人間健康学部 スポーツ健康学科 前川美紀子+ゼミ生	食育について- 食育サットを使ってバランスのとれたメニューを考える~(名桜大学オープンキャンパス収録)
名護市健康増進課+女性ネット	健康増進課 伊波勝枝 宮里徳仁 女性ネット(名護市赤十字奉仕団)前田文子・我部のり子	献血推進厚生労働大臣賞受賞・名護市の献血の状況
沖縄県北部保健所	健康増進課 健康増進グループ 上地香 松田葉子	健康増進普及月間・食生活改善普及運動について
名護市消防本部	救命救急:新垣剛 仲栄真盛一	救急車の出動について (救急搬送先、搬送件数、搬送される内容など)
かじまやリゾートクリニック	院長 鍛冶	担当医師である鍛冶先生より #8000の利用方法について
公立大学法人 名桜大学 +名護市母子寡夫福祉会	国際学際 診療情報管理専攻 大城真理子 会長 岸本能子	死について考える (臨床心理医の立場から、女性の立場から)
公立大学法人 名桜大学 +女性ネット	人間健康学部 看護学科 大城凌子 女性ネット 比嘉サダ子	名桜大学大城凌子先生と看護学科の学生と共に行う 宮里区朝市健康相談10年目の取り組みについて。
認定NPO法人 メッシュサポート	事務局長 塚本裕樹	メッシュの救急活動について(件数・活動実績数など)
やまだクリニック	院長 山田護	インフルエンザについて(症状、予防法など)
やんばるちびっこの会	代表 石上朱美	自身の経験から...小さく生まれた子どもを持つ親のための 居場所づくり、活動について

# 第4回 やんばる医療塾 やんばる寺子屋in 伊江島

4回目になりましたやんばる医療塾事業「やんばる寺子屋」では、昨年に引き続き琉球大学医学部地域医療研究会の学生にご協力いただき伊江村の小中学生を対象に今後役立つ勉強の仕方を教え、また医療のシゴトの入口を体験してもらい、その魅力を伝える勉強会を開催することで医療により興味を持つ児童生徒が増え、将来的な医師確保へ繋がる事を期待する。また、琉球大学の医学部学生にとっても、伊江村の地域児童との交流、医療関係者、住民の皆さんとの関係作りを深め、地域の方々との関わりにより医学部生の臨床研修に役立つ。

日時:2016年8月27日(土)13:30~17:00 場所:伊江村農村環境改善センター 参加費無料

〈実施〉参加者:琉球大学医学部地域医療研究会 学生5名、地域の小中学生11名  
 主なプログラム:自己紹介ゲーム・医療機器体験・勉強方法のレクチャー・伊江村立診療所 阿部好弘医師の講話など

※第5回やんばる医療塾は2017年2月に開催予定です。



## 夜間救急の適正受診 ポスターやうちわで啓発



北部地域の夜間救急は沖縄県立北部病院と北部地区医師会病院が行っており、医師の負担を軽減するため歩行来院による夜間の内科検診の制限を行っています。

- 夜間救急の適正受診のポスター1000枚の配布
- 夜間救急の適正受診(かかりつけ医をもとに) #8000(小児救急医療相談)、FMやんばるラジオ「やんばるメディカルゆいま〜る」のお知らせを掲載したうちわ32000枚
- 夜間救急の適正利用を促す2分30秒の動画DVD
- 年間4回の発行で人材バンクの登録を呼びかけ、北部地域の医療機関および地域のさまざまなイベント情報を発信し、中長期的な人材確保に繋げることを目的にしたニュースレター「やんばる地域医療だより」10000部

※啓発グッズとして、うちわ、ポスター、ニュースレターは、北部地域の各小学校、幼稚園、保育園や医療施設、役場、公民館などに配布。DVDは名護市中央公民館の電光掲示板などで放映されている。

**地域基幹病院構築に向けた住民勉強会**

特別講演 **「新潟県魚沼地域における地域基幹病院構築の経験について」**

演者 新潟大学地域医療教育センター 魚沼基幹病院 院長 内山 聖

現状報告 沖縄県立北部病院 院長 仲間司 / 北部地区医師会病院 院長 諸喜田林 / 琉球大学医学部附属病院 院長 藤田次郎

日時 平成28年11月4日(金)午後7時~午後9時 場所 IZUMO 2階(名護市大東)

問い合わせ先 北部広域市町村圏事務組合 電話番号 0980-52-7049

**入場無料 要申込**

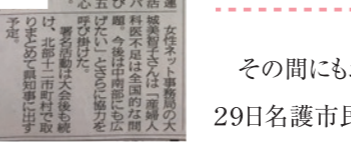
## 市民団体、女性ネットによる医療を守る活動の報告

### 北部地域の産婦人科再開への取り組み

#### 北部医療問題と名護市女性ネットの活動の記録(その1) 岸本 能子



平成17年2月、沖縄県立北部病院産婦人科が休止されるという突然のニュースに名護市、北部全域はパニックに陥った。その頃確かに全国的な医師不足それに伴う医療ミス、たらいまわしによる患者の死亡事故等が報じられていたが、まさか地元の基幹病院がこのような事態になっているとは知らずまさに晴天の霹靂であった。名護市女性ネットは宮城里子会長のもと、婦人会をはじめ、赤十字、母子寡婦福祉会、子育て支援塾、更生保護女性会、女性防火クラブ等の女性団体が構成するネットワークであるがこの事態にはすぐさま対応した。名護市婦人会や北部連合婦人会が署名活動を開始したのをきっかけに4月にネット加盟の団体も取り組みを開始、6月9日には故岸本市長と共に県知事へ直接「北部病院産婦人科存続要請行動」をおこなった。さらに7月7日には県議会へ要請行動を行い委員会を傍聴した。



その間にもおよそ3100余の署名が集まり、9月29日名護市民会館大ホールで「県立北部病院産婦人科再開・存続を求める北部12市町村総決起大会」を開催する事が出来た。その大会は2階およびロビーまで満席の状態で市民の関心の深さが見て取れる。決起大会後の県や琉大医学部へ要請の結果、半年後の5月やっと防衛医官一名の派遣が決定、再開の道が開けたと思ったが医官は翌年3月に退職してしまった。またもや空白の休止状態に陥ったのである。救急の妊婦は中部迄搬送されねばならず搬送中に体調を崩し出産したり、中部病院に入院できなかったり等当事者の不安や負担は大きかった。「北部の女性は安心、安全な当たり前の生活ができない」、と不満はますます大きくなり産婦人科の早期再開は急務であった。



当時名護市の保健婦や名護療育園の泉川良範先生、県立北部病院に勤めていた大城真理子先生等は「やんばる母と子の命をまもる勉強会」で医師不足による産婦人科休止問題を取り上げていたが女性ネットはこの会で地域医療の問題を学習し、北部のことは北部の市町村が考えるべきとの指摘を受けて、平成20年(2008)「県立北部病院の役割を考える」フォーラムを開催して北部医療問題は市民が主体となって取り組むべきことを提示したのである。

産婦人科は通常4人体制が望ましいが平成19年(2007)12月、村田、金城の2人の先生が就任、市内に「県立北部病院産婦人科の先生、就任ありがとう」の横断幕を掲示、女性ネットは激励会でお迎えした。7月には待ちに待った産婦人科の一部が再開された。(次号へ続く)

※女性ネットとは、各種団体の女性代表で組織するネットワーク協議会で、各種団体の問題点を共有し、解決していくために協力し合い考えていく女性パワーの源です。北部の女性も熱いすゝ耳を傾けてみてください。